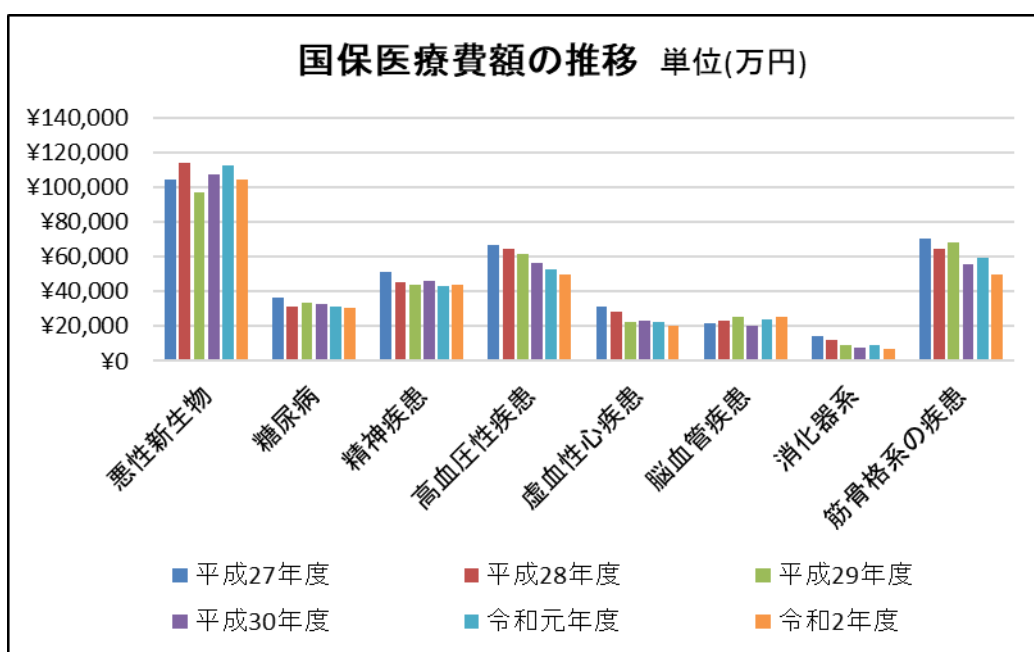


## 国保医療費額（高血圧性疾患）の減少に影響を与えたと考えられる

### 要因について

令和3年8月23日に開催した長浜市健康づくり推進協議会にて、委員より高血圧性疾患にかかる国保医療費が経年的に減少していることについてご質問いただいた件について、滋賀県国民健康保険団体連合会（国保連）より情報提供と助言を受け分析したところ、減少に影響を与えたと考えられる要因がありましたので、協議会委員へ報告します。

### 1. 疾病分類別医療費の推移（H27～R2）※国保統計・医療費分析システムより



### 2. 医療費減少に関する要因について

医療費減少に影響を与えたと考えられる主な要因として3点あり、これらの要因が複合的に絡んで、現在の医療費減少につながっているのではないかと推測されます。

なお、レセプトデータ全49,000件の中で、高血圧性疾患は20%を占めています。

#### 【要因】

#### ①被保険者数（特に高齢者）の減少

- ➔国民健康保険自体に加入している者が減少しているため、国保医療費に与える影響が少なくなっている可能性がある。

②長浜市国保加入者の中で治療薬におけるジェネリック医薬品の普及と使用率の増加

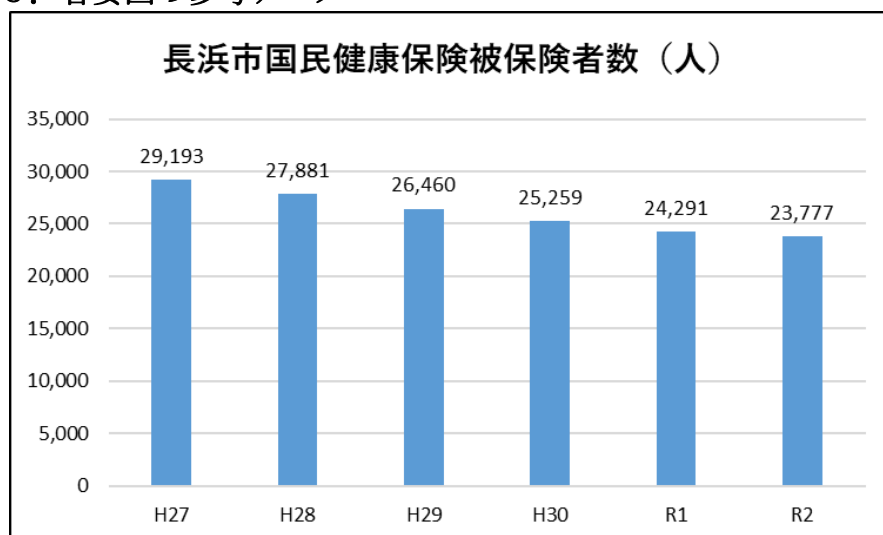
➔長浜市の国保加入者の中で、ジェネリック医薬品の使用率が高まり、医療費の抑制に効果を示している可能性がある。

③高血圧性疾患の治療に用いるジェネリック薬の利用開始

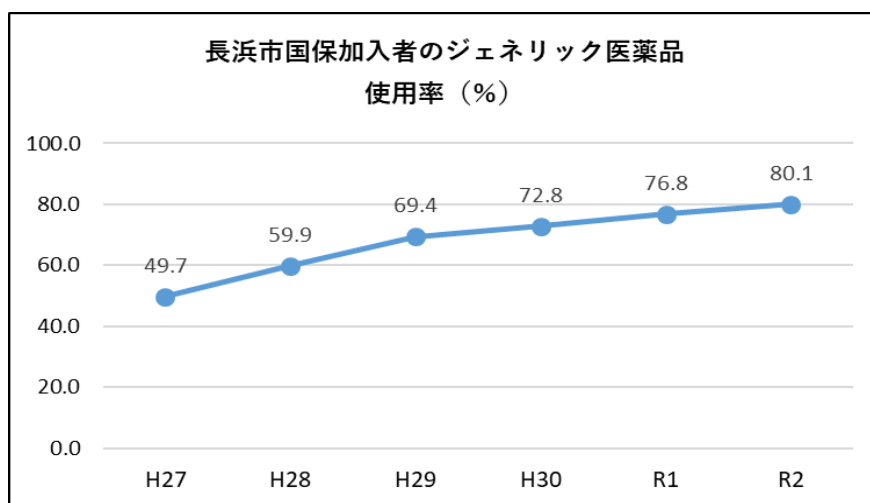
(平成 29 年 12 月より)

➔高血圧性疾患の治療に使用するジェネリック製品の使用が一般化し、②に示すようにジェネリック製品の使用率とあいまって、医療費の抑制に影響を与えた可能性がある。

3. 各要因の参考データ



国保加入者数は年々減少傾向にあります。(データ提供元：保険年金課)



ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用率は年々上昇している状況です。  
(データ提供元：滋賀県国民健康保険団体連合会)

**※ジェネリック医薬品とは**

新薬の特許期間満了後、新薬と同じ効き目が同等であることを証明する様々な試験を実施し、厚生労働省の承認を得て、製造・販売する医薬品のことで、後発医薬品とも呼ばれます。

また、ジェネリック医薬品は、既に安全性・有効性が確認された有効成分を使用しているため、開発期間が短く、少ない費用で開発・販売できるため、定価価格となり、患者負担、保険者負担の抑制が期待されています。